実践報告

旅をテーマとした オーセンティック中国語教材の開発と実践
── 場所を媒介とする言語・文化理解の試み ──

Developing and Implementing an Authentic Travel-Themed Chinese Language Textbook: An Approach to Language and Cultural Understanding Mediated through Place

単　　艾　婷
公立小松大学

Abstract: This study reports on the development and classroom implementation of the second volume in the Chinese language textbook series *Travelling through the World of Chinese Language*, titled *Travelling in China: Twelve Breathtaking Places to Visit Once in a Lifetime*. The textbook is based on the authentic Chinese travel guide *100 Places to Explore* (edited by Wang Quanmin) and adopts a learning design that integrates multiple modes, including explanatory texts, photographs, and maps. The first part focuses on reading comprehension through the analysis of "travel narratives written by others," while the second part promotes oral production through role-playing activities that encourage learners to imagine "their own journeys." A questionnaire survey on the curriculum using this textbook revealed that learners showed positive changes in both linguistic and cultural understanding and deepened their interest in the diverse regional cultures of China. This study positions foreign language learning as an "indirect and preliminary space of inter-cultural experience" and proposes a new direction for language and culture education mediated through the concept of place.

Keywords: Chinese language education; authentic materials; reading and speaking; cultural understanding; travel

1．研究の背景と目的

近年の外国語教育の動向には、いくつかの顕著なトレンドが見られる。第一に、教授法の面では、文法訳読法からコミュニカティブ・アプローチやタスク中心型言語学習へと移行し、実践的

なコミュニケーション能力の育成が重視されるようになっている（嵐 2018, 賀 2021 など）。第二に、教材の多様化が進んでおり、従来の文字情報に加え、画像・音声・動画を組み合わせたマルチモーダル教材の活用が広がっている（グリブ 2023, 白井・松岡 2024, 西村 2025 など）。第三に、内容言語統合型学習（Content and Language Integrated Learning：CLIL）の方法論が導入され、言語学習と内容学習を統合する取り組みが推進されている（張 2017, 植村 2018, 柳川 2025 など）。これに伴い、外国語教育を通じて異文化リテラシーを高める試みも加速している。さらに、教育環境の高度デジタル化が進展し、Zoom をはじめとするオンライン学習環境が一般化するとともに、VR 技術の導入なども試験的に行われている（渡邉 2023, 佐竹 2025 など）。

こうした全体的な外国語教育の潮流の中で、中国語教育に焦点を当てると、特に実践的な問題解決力、論理的思考力、コミュニケーション能力などの汎用的技能の養成が中心的な教育課題として掲げられている。しかしながら、現行の外国語教育が過度に実用主義へと傾斜している点については、一定の改善が必要であるとの指摘もある（内田ほか 2011, 辻野 2018 など）。このような現状を踏まえ、筆者は 2020 年度より（1）中国語教育における授業コンテンツの多様化を目指すこと、(2) 語彙や文法のみならず、テクストについて面白く学べる環境を作ること、(3) コミュニケーション活動の積極的実施という学習需要を押さえつつ、中国語学習環境に読書活動という新たな要素を導入することなどに主眼を置いた中国語教育に関する研究や実践に取り組んでいる。

具体的には、語彙や文法といったミクロな言語要素ではなく、テクストや談話といったマクロなカテゴリーに着目した実践活動に注目している。具体的には、「コミュニケーション活動を軸とする実践」として、①タスク中心型プレゼンテーション活動、②プロジェクト学習の導入によるプレゼンテーション活動、③ Show & Tell 活動を実施し（単 2023, 2025a）、また「読書活動を軸とする実践」として、④ブックレポート活動（単 2022a）、⑤タンデム学習の導入による文化交流活動、⑥オーセンティックテクストを題材とする教材と教育カリキュラムの開発（単 2022b, 2024, 2025b）を行っている。本稿では、これらの実践のうち、特に⑥の「オーセンティックテクストを題材とする教材と教育カリキュラムの開発」に焦点を当て、その具体的な実践内容について報告する。

2．開発した教科書のコンセプトと設計

本稿では、まず「テクスト」という概念について提示する。私たちの日常生活にはさまざまな言語表現の形態が存在する。一般的には、その中でも新聞記事、文学作品、詩歌、科学論文、広告コピーなどがテクストとして認識されている。テクストには多様な定義があるが、本稿ではテクストを「コミュニケーションの場に位置づけられる文の連なり」と定義する（野村 2024）。すなわち、テクストとは単なる文の集合体ではなく、語り手と聞き手が存在し、前後の文脈との関連性を持つものである。

次に、テクストがどのように形成されるかについて考えてみると、文の連なりを構成する側面

は大きく2つに分類できる。1つ目は「結束性」（ミクロ構造）であり、これは文と文の間に「つながり」を持たせる役割を果たす。2つ目は「首尾一貫性」（マクロ構造）であり、これは全体として「まとまり」を持たせる働きである。このように、テクストは単なる文の集合ではなく、結束性と首尾一貫性という2つの側面によって構築されると言える（池上1985）。

さらに、オーセンティックテクストについて考えてみたい。オーセンティックテクストは、「現実の社会的・文化的コンテクストの中で、実際のコミュニケーションツールとして機能しているテクスト」を指す。この概念に関連して、中国の読書市場を見てみると、年間22.5万種の新書が出版され、重版は30.4万種にのぼる（2021年の統計）。また、オンラインプラットフォームを活用した読書コミュニティも活発に形成されており、例えばREDやWeChatなどのプラットフォームでの読書活動が広がりを見せている。

本研究の中心的な要素のひとつは、「オーセンティックテクストを読むことを軸とする中国語教育パッケージの開発」である。この新たな中国語教育パッケージは、「教科書」と「教育カリキュラム」という2つの主要な構成要素から成り立っており、2022年に作成・刊行された最初の教科書は、中国の若手作家・陈谌の短編小説《冰箱里的企鹅》（天津人民出版社2014）を題材にしている。この教科書では、「オーセンティックテクストの導入」や「トップダウン方式の学習スタイルの導入」、「言語学習と内容理解の連携」という新たな教育コンセプトが取り入れられている。また、その教育カリキュラムは、「読書活動とコミュニケーション活動の統合」および「四技能の有機的連携」という2つの基本コンセプトを基盤に設計されている。このカリキュラムは、学習者が言語習得と文化理解を深めるために、実際的な言語使用を重視した内容となっている。

さらに、今回新たに作成したシリーズの第2冊目では、この教育パッケージをより広範囲に拡張することを視野に入れ、物語テクストとは異なるジャンルの説明テクストを題材として選定した。具体的には、王全民編著の《100个地方畅游通》（江苏凤凰科学技术出版社2017）という書籍を選んだ。本書は中国国内で出版された旅行ガイドブックであり、「神々の傑作」「奇跡の自然」「草原と砂漠」「知恵の結晶」「地上の楽園」「不朽の遺産」という6つのテーマのもと、編集者が厳選した100ヶ所の「中国の美しい場所」を、色鮮やかな写真とともに紹介している。また、本書は「写真」「タイトル」「TIPS」「本文テクスト」「写真キャプション」など複数の構成要素を含むマルチモーダルテクストとしての特徴も有している。新たに作成した教科書は、『游中国　一度は行ってみたい絶景12選』というメインタイトルのものであり、その構成要素と配置は以下の通りである。

表１　新たな教科書の構成要素と配置

前半 （1-12 課）	（1）1 課分の原文 （2）確認してみよう （3）段落 （4）文法のポイント （5）想像してみよう （6）練習問題
後半 （1-12 課）	（1）各シチュエーション本文 （2）単語帳
附録	巻中：コラム 巻末：理解の手引きⅠ 巻末：理解の手引きⅡ 語彙索引 ロールプレイシート
別冊	予習ノート

まず各課の最初のページには、タイトルのほか《100 个地方畅游通》から抜粋した（1）「原文」、該当する場所の地図、カラー写真を掲載した（図１）。２～４ページ目には、以下の学習項目を配置している（図２）。

（2）「確認してみよう」：各段落の内容をより正確に理解するための関連知識の確認

（3）「段落」：１ページ目の原文を段落ごとに分割し、文番号を付したもの

（4）「文法のポイント」：特に重要な文法をピックアップし、例文を用いた解説とドリルによるアウトプット練習を行う学習項目。特に、書き言葉の文法と、それに対応する話し言葉の文法を併記する工夫を施している。

５ページ目には、(5)「想像してみよう」という学習項目を配置し、写真を用いて原文中の難解な四字熟語のイメージを補完する。６ページ目には、中国語運用能力の向上と内容理解の深化をバランスよく促すための《练一练》《想一想》《写一写》の３種類の（6）練習問題を設けた（図３）。

７～８ページ目には、「日本人学生の上野くんが中国の蘇州で一人旅をし、さまざまなシチュエーションに遭遇する」というテーマの旅行会話練習を配置した（図４）。このパートには、会話のシチュエーション説明・会話本文・単語帳が含まれる。各課で１シチュエーションの会話練習が完結するが、全 12 課を通じて一連のストーリーとなるよう構成している。

また、付録として、巻中コラム「場所を読む――漢詩と意境」、巻末コラム「理解の手引きⅠ：中国語の話し言葉と書き言葉」「理解の手引きⅡ：中国語の方言と中国少数民族言語」を収録し、内容を充実させた。さらに、学習者が場面設定とワードバンクを参照しながら、ペアで模擬会話を作成しやすいように、旅行会話パート用のロールプレイシートを用意した。加えて、別冊の予習ノートを作成し、授業前の予習に活用できるようにした。このノートには、各文にグロスを付し、文章のコンテクストを踏まえた単語の理解を助けることで、スムーズな翻訳ができるよう工夫を施している。

Lesson 8

第8課 布达拉宫 世界屋脊上的明珠

ヒマラヤの明珠 ポタラ宮

■062 有人称西藏是最接近天堂的地方，在这里心灵可以得到释放。有人喜欢它的辽阔高远，有人喜欢它的神秘瑰丽，也有人喜欢它的简单纯净。每年都有无数的旅游爱好者来此探索西藏的美丽。布达拉宫这座高山上的明珠，更是今无数人向往和敬仰。

彩色壁画和雕塑是布达拉宫的一大特色。内部宫室、殿堂每一处都雕刻有壁画和雕塑，就连居住的地方也绘有幔帐和墙裙。壁画丰富多彩，雕塑更是精细传神，或辉煌壮丽，或典雅庄重。这些壁画、雕塑内容广泛，有历史人物图画，有宗教佛经故事，还有当时建造布达拉宫的劳动画面，以及表现民俗风情的生活图画。其中表现宗教神话的故事的壁画，往往以一尊大佛或者菩萨为中心，色彩以朱红、橘红、深红等暖色调为主，再辅以浅青、深绿等冷色调，画面清晰，对比强烈，表现了藏族人民高超的绘画技艺，是藏族文化艺术的宝库。

68

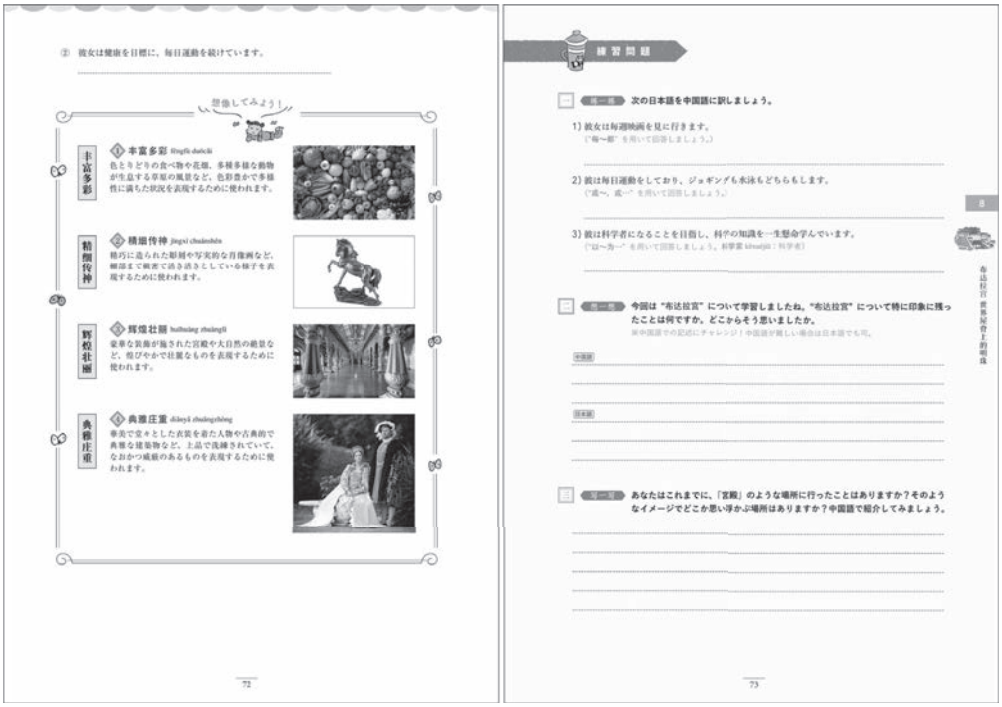
69

図1　教科書1～2ページ（第8課）

70

71

図2　教科書3～4ページ（第8課）



② 彼女は健康を目標に、毎日運動を続けています。

想像してみよう！

丰富多彩

① 丰富多彩 fēngfù duōcǎi
色とりどりの食べ物や花畑、多種多様な動物が生息する草原の風景など、色彩豊かで多様性に満ちた状況を表現するために使われます。

精细传神

② 精细传神 jīngxì chuánshén
精巧に造られた彫刻や写実的な肖像画など、細部まで綿密で活き活きとしている様子を表現するために使われます。

辉煌壮丽

③ 辉煌壮丽 huīhuáng zhuànglì
豪華な装飾が施された宮殿や大自然の絶景など、雄びやかで壮麗なものを表現するために使われます。

典雅庄重

④ 典雅庄重 diǎnyǎ zhuāngzhòng
華美で奥ゆかしい装飾を着た人物や古典的で典雅な建築物など、上品で洗練されていて、なおかつ威厳のあるものを表現するために使われます。

72

練習問題

一 第一題 次の日本語を中国語に訳しましょう。

1) 彼女は毎週映画を見に行きます。
（"每～都" を用いて回答しましょう。）

2) 彼は毎日運動をしており、ジョギングも水泳もどちらもします。
（"或～, 或～" を用いて回答しましょう。）

3) 彼は科学者になることを目指し、科学の知識を一生懸命学んでいます。
（"以～为～" を用いて回答しましょう。科学者 kēxuéjiā：科学者）

二 第二題 今回は "布达拉宫" について学習しましたね。"布达拉宫" について特に印象に残ったことは何ですか。どこからそう思いましたか。
※中国語での記述にチャレンジ！中国語が難しい場合は日本語でも可。

中国語

日本語

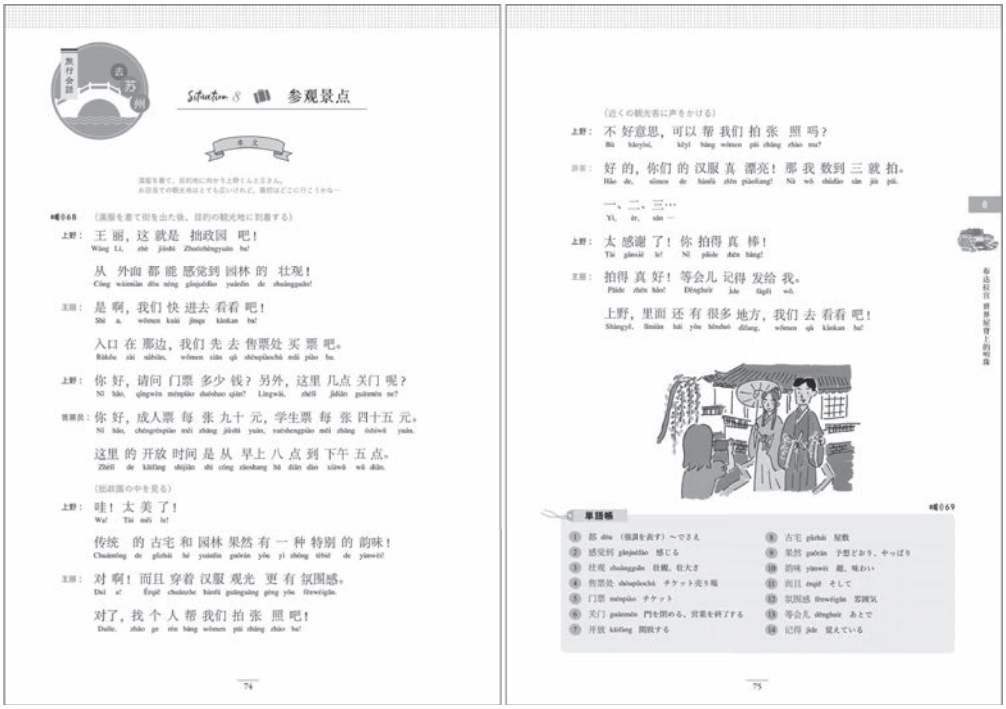
三 第三題 あなたはこれまでに、「宮殿」のような場所に行ったことはありますか？そのようなイメージでどこか思い浮かぶ場所はありますか？中国語で紹介してみましょう。

8

布达拉宫 世界屋脊上的明珠

73

図３　教科書５～６ページ（第８課）



旅行会話 去苏州

Situation 8 参观景点

本文

滞在を楽で、目的地に向かう上野くんと王さん。
お目当ての観光地はとても広いけれど、最初はどこに行こうかな―

MP068 （滞在を楽で出た後、目的の観光地に到着する）

上野： 王丽，这就是 拙政园 吧！
Wáng Lì, zhè jiùshì Zhuōzhèngyuán ba!

从 外面 都 能 感觉到 园林 的 壮观！
Cóng wàimiàn dōu néng gǎnjuédào yuánlín de zhuàngguān!

王丽： 是 啊，我们 快 进去 看看 吧！
Shì a, wǒmen kuài jìnqù kànkan ba!

入口 在 那边，我们 先 去 售票处 买 票 吧。
Rùkǒu zài nàbiān, wǒmen xiān qù shòupiàochù mǎi piào ba.

上野： 你 好，请问 门票 多少 钱？另外，这里 几点 关门 呢？
Nǐ hǎo, qǐngwèn ménpiào duōshao qián? Lìngwài, zhèlǐ jǐdiǎn guānmén ne?

售票员： 你 好，成人票 每 张 九十 元，学生票 每 张 四十五 元。
Nǐ hǎo, chéngrénpiào měi zhāng jiǔshí yuán, xuéshengpiào měi zhāng sìshíwǔ yuán.

这里 的 开放 时间 是 从 早上 八 点 到 下午 五 点。
Zhèlǐ de kāifàng shíjiān shì cóng zǎoshang bā diǎn dào xiàwǔ wǔ diǎn.

（拙政園の中を見る）

上野： 哇！太 美 了！
Wa! Tài měi le!

传统 的 古宅 和 园林 果然 有 一 种 特别 的 韵味！
Chuántǒng de gǔzhái hé yuánlín guǒrán yǒu yì zhǒng tèbié de yùnwèi!

王丽： 对 啊！而且 穿着 汉服 观光 更 有 氛围感。
Duì a! Érqiě chuānzhe hànfú guānguāng gèng yǒu fēnwéigǎn.

对了，找 个 人 帮 我们 拍 张 照 吧！
Duìle, zhǎo ge rén bāng wǒmen pāi zhāng zhào ba!

74

（近くの観光者に声をかける）

上野： 不 好意思，可以 帮 我们 拍 张 照 吗？
Bù hǎoyìsi, kěyǐ bāng wǒmen pāi zhāng zhào ma?

游客： 好 的，你们 的 汉服 真 漂亮！那 我 数到 三 就 拍。
Hǎo de, nǐmen de hànfú zhēn piàoliang! Nà wǒ shǔdào sān jiù pāi.

一、二、三…
Yī, èr, sān …

上野： 太 感谢 了！你 拍得 真 棒！
Tài gǎnxiè le! Nǐ pāide zhēn bàng!

王丽： 拍得 真 好！等会儿 记得 发给 我。
Pāide zhēn hǎo! Děnghuìr jìde fāgěi wǒ.

上野，里面 还 有 很多 地方，我们 去 看看 吧！
Shàngyě, lǐmiàn hái yǒu hěnduō dìfang, wǒmen qù kànkan ba!

8

布达拉宫 世界屋脊上的明珠

単語帳 MP069

① 都 dōu （強調を表す）～でさえ
② 感觉到 gǎnjuédào 感じる
③ 壮观 zhuàngguān 壮観、壮大さ
④ 售票处 shòupiàochù チケット売り場
⑤ 门票 ménpiào チケット
⑥ 关门 guānmén 門を閉める、営業を終了する
⑦ 开放 kāifàng 開放する
⑧ 古宅 gǔzhái 屋敷
⑨ 果然 guǒrán 予想どおり、やっぱり
⑩ 韵味 yùnwèi 趣、味わい
⑪ 而且 érqiě そして
⑫ 氛围感 fēnwéigǎn 雰囲気
⑬ 等会儿 děnghuìr あとで
⑭ 记得 jìde 覚えている

75

図４　教科書７～８ページ（第８課）

3．授業実践の概要と教科書の活用方法

本授業では、テクストの内容のバランスを考慮しつつ、12ヶ所の景勝地を紹介する文章を選定し使用した。授業は全12課で構成され、各課は前半パートと後半パートから成る2部構成となっている。前半パートでは、中国語で書かれた〈他者による旅の記録〉を読み解くことを中心に学習し、後半パートでは〈自分自身の旅〉を想像しながら旅行会話のロールプレイに取り組む形式で進行する。

本授業は、2023年度に前任校（西南学院大学）の中級クラスにおいて対面形式で実施された。このクラスの履修者は18名（国際文化学部所属）であり、さらに2024年度には本学の中国語研究Ｂクラスにおいて対面形式で実施された。このクラスの履修者は6名（国際文化交流学部所属）であった。授業で使用した教科書と補助スライドの活用方法は次の通りである。

前半パート：〈他者による旅の記録〉を読み解く

①学習目標の提示

「文法のポイント」と「旅の目的地」を提示し、学習目標を明確にする（図5）。

図5　補助スライド：学習目標の提示（第8課）

②ウォーミングアップ

トークテーマを導入し、教師や学習者がイメージする、テーマと関連する場所について話し合うことによって、課の内容に対する親しみを深める。

図６　補助スライド：ウォーミングアップ（第８課）

③背景知識の確認

各段落に関連する地図や写真を交え、「確認してみよう」における背景知識を紹介し、学習者がテクストを理解するための基盤を作る（図７）。

図７　補助スライド：背景知識の確認（第８課）

④段落の素読

各段落を、ポーズを意識して音読する。最初に教師と共に音読し、その後、個別に学習者に音読をしてもらう。

⑤文法ポイントの確認

各段落の理解を深めるために、重要な文法のポイントをピックアップし、例文を通して解説する。その後ドリルを解いて、アウトプットの練習を行う。

⑥原文の再確認と翻訳クイズ

原文を再確認した後、一部を翻訳クイズとして学習者に訳例を発表させ、理解度をチェックする。

⑦観光地の紹介

前半パートの最後には、学習課で紹介された観光地が所在する省や自治区の特徴（ランドマーク、グルメ、特産物など）を紹介し、学習者が実際の文化や地域に親しむ機会を提供する（図8）。

図８　補助スライド：観光地の紹介（第８課）

後半パート：〈自分自身の旅〉を想像し、旅行会話のロールプレイに取り組む

①旅行会話の学習

旅行会話のシチュエーションを参考に、モデル会話を学習する。実際の会話に必要な表現を理解し、会話の流れを掴む。

②蘇州の観光地や文化のレアリア紹介

モデル会話と関連のある蘇州の観光地やグルメ、文化を紹介することで、学習者が会話の背景となる情報を得られるようにする（図 9）。

図 9　補助スライド：蘇州の観光地や文化のレアリア紹介（第 8 課）

③ロールプレイ

巻末のロールプレイシートを使用し、場面設定とワードバンクを参照しながら、ペアで模擬会話を作成・発表する。

④練習問題

学習内容を定着させるために練習問題を解く。具体的な問題は以下の通りである。

- 《练一练》: 学習課で学んだ文法のポイントを使った練習。
- 《想一想》: 学習課のトピックについて、特に印象に残ったことを作文する練習。
- 《写一写》: 学習者自身の旅行経験をテーマにした作文練習。

4．授業評価の方法と質問紙調査の結果

本授業実践に対する学習者の反応を整理し、授業効果の評価に繋げるため、質問紙調査を実施した。調査は無記名式であり、質問紙の記入と回収は Google Form 上で行った。本稿では、主として以下の 3 点に関する学習者の評価に着目し、質問紙回答の代表的結果を整理して示す。

（A） 教科書全体の満足度に対する質問項目
（B） 言語理解の到達度に対する質問項目
（C） 文化理解の到達度に対する質問項目

まず（A）「教科書全体の満足度」に関連した定性的質問項目である「この授業で良かったところや、改善してほしいところなどを含めて、一年間の授業を通して気付いたことや感じたことを自由に書いてください。」では、以下のような回答が見られた（前任校）。

- 回答（1）「中国に関係する普通の授業ではあまり扱わないテーマでリアルな中国を感じることができました。ありがとうございました！」
- 回答（2）「旅行のガイドブックが元になっていたので、とても楽しく勉強できました。また、会話練習もたくさんあったので、実際に話す能力も向上したと思います。授業内容には大変満足しています。ありがとうございました。」
- 回答（3）「先生の作る資料や授業がとっても分かりやすくて、自分自身は中国語が得意ではないのですが、この授業に対しての意欲は先生のおかげで高かったです。ありがとうございました。」

次に、「この授業を終えて、中国語学習に対する興味やモチベーションはどのように変化しましたか？本授業を含めた中国語学習全般に関して、感じたことや今後の意気込みなどを自由に書いてください。」という質問項目では、以下のような回答が見られた（本学）。

- 回答（4）「中国語の四字熟語をもっとたくさん学びたいと思ったし、中国語で会話する機会が多かったため、聞いてわかる単語量が増えた気がした。今年中に hsk6 級を取ることを目標に中国語学習を頑張りたいと思う。」
- 回答（5）「最初はビジネス面で使ったり、日常会話で使えるように練習ができればいいなと思っていたけど、それよりも文学的な面でも勉強してみたいなという思いが強くなりました。とても楽しかったです。」
- 回答（6）「前半パートの文章が少し難しかったが、それを学習し終えたことで少し中国語の読解力が上がった気がする。」

続いて、（B）「言語理解の到達度」に関連した質問項目である「前半パートで、中国で実際に出版されている旅行ガイドブックの文章を読み、後半パートで、旅行会話をペア学習するというこの授業の構成や内容について、改善してほしい点や良かった点、あるいは特に印象に残ったことについて教えてください。」では、以下のような回答が見られた（本学）。

- 回答（7）「最初の導入部分で、「神秘的な場所行ったことありますか？」などの話題を話して、ガイドブックの内容をして、旅行会話の練習をした後に作文の部分で、1 番最初の話題

で作文が書けるという構成がとてもよかったと感じました。」

- 回答（8）「旅行会話をペアで作るのがよかった。知っている単語や文法を振り返って文章にしていく楽しさがあった。」
- 回答（9）「紹介されていた観光地が初めて知る場所ばかりだったので、中国語を楽しく学ぶことができた。」

次に、書き言葉の学習に特化させた質問項目である「この授業の前半パートでは、皆さんにとってあまり馴染みのない中国語の書き言葉について学びました。この経験を通してどのような気づきを得ましたか？また書き言葉の学習を通して特に印象に残ったことは何ですか？」では、以下のような回答が見られた（本学）。

- 回答（10）「書き言葉についてあまり意識したことがなかったため今後の作文では気をつけようと思ったし、また書き言葉を習得すればより上級者に近づけると感じた」
- 回答（11）「会話練習だけでは得られない文学的な知識が得られたのがとても良かったです。」
- 回答（12）「今まであまり意識してなかったが、書き言葉と話し言葉を使い分けて文章をつくりたいと思った」

最後に、（C）「文化理解の到達度」に関連して、まず定量的質問項目である「一年間の授業を通して、中国の様々な場所に対する関心は深まりましたか？」と「一年間の授業を通して、中国国内の各地域・各民族の文化や歴史などに対する関心は深まりましたか？」という質問では、いずれも「とてもそう思う」が 93.8% で、「そう思う」が 6.2% であった（前任校）。また、定性的質問項目である「この授業の前半パートと後半パートの共通テーマは、中国を旅することでした。この授業を通して、皆さんが旅することに関連して新たに考えたことや興味を持ったことについて教えてください」という質問では、以下のような回答が見られた（本学）。

- 回答（13）「私は留学に行っていろんな食べ物を食べたが、名前が何かわかっていなかったため、今回の授業を通して知ることができ、自分が意外といろんな土地料理を食べていたことが分かって嬉しくなった。しかし観光地については行ったことのない場所がほとんどだったため、次は観光目的で中国に行きたいと思った。」
- 回答（14）「ただ観光スポットを巡るだけでなく、その場所の文化や歴史の物語を知ると、より深い旅になると思った。」
- 回答（15）「観光地に行く前に、その場所の文化について理解を深めておくことがとても大事だと感じた。」

また、学習者にとって特に印象に残った場所について別途質問を実施したところ、以下の図 10 に示すように、ポタラ宮が 56.3% で最も多く、元陽棚田やフルンボイル草原、鳳凰古城などがそ

れに続く結果が得られた。この結果は、自然環境よりも人為環境、さらに、馴染みのある漢文化の観光地よりも、地方や少数民族の文化圏が特に印象に残ったことを示唆していると考えられる。これらの結果から、学習者は、人間の活動と関わりのある未知の異文化空間に対してより強い興味・関心を抱いていることが推察される。

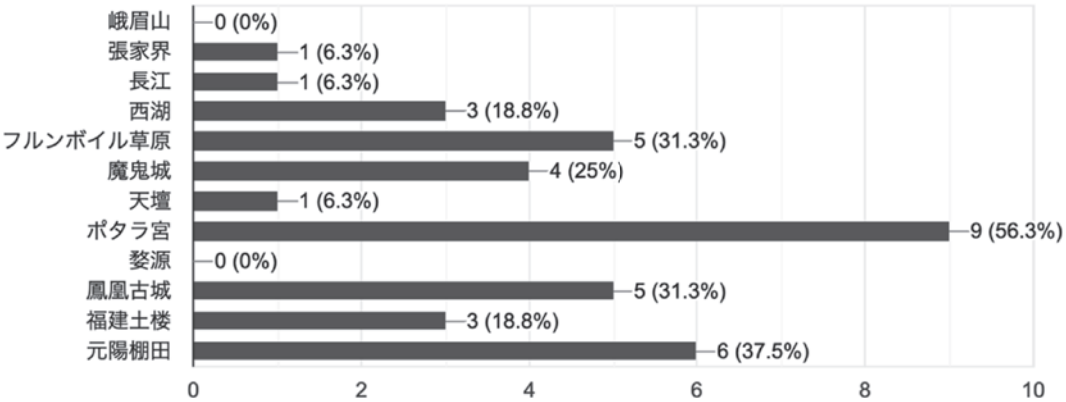


図 10　学習者にとって特に印象に残った場所

5．考察

本節では質問紙調査の結果に基づき、本授業実践の現状における授業効果と今後の課題について考察する。

まず、中国国内で出版された旅行ガイドブックをそのまま教材として使用するという授業コンセプトであるが、特に回答（1）（9）および「印象に残った場所」の集計結果からは、同コンセプトが中国という国の文化的多様性への気付きや興味喚起に対して、一定程度有効に作用したことが示唆される。この結果には、教材のテクストが単に観光地を説明する文章ではなく、王全民ほかの中国人である編著者たちによる「意境」が反映された文章であったことも奏効したのではないかと思われる。文学者の岡真理は、次のように述べている。「小説それ自体は現実を変えはしない。しかし、小説を読むことは私たちのなかの何かを、たしかに根源的に変える。コンスタンティーヌにせよガザにせよ、行ったこともないそれらの土地が、小説を読むことで変貌を遂げる。私のなかで大切な、かけがえのない存在になる」（岡 2017：310）。岡（2017）の言及対象が「アラブ文化圏の小説テクスト」である一方、本授業実践の対象は「中国の説明テクスト」であるため、そのテクスト的性格は大きく異なるものの、テクストが、「私たちのなかの何かを、たしかに根源的に変える」という作用を果たしているという点においては共通していると考えられる。また人類学者の N.H.H. グラバーンが、観光の本質のひとつは、家〈ホーム〉から離れた場所への移動であり、それは自らが慣れ親しんだ空間から見慣れぬ空間に移動することを意味すると述べて

いる（Graburn 1977）。ここで回答（13）などを参照すると、学習者たちは、本教材の使用による「仮想的な旅」、すなわち Graburn（1977）が述べる「見慣れぬ空間への移動」経験を通して、学習者が自分自身（の状況や経験）に対する内省を実現させたと言えよう。さらに回答（14）（15）の学習者などは、「対象となる場所の文化を知ること」の重要性への気づきを述べている。これは機能言語学者の M.A.K. ハリデーが、言語の意味はコンテクストによって規定される（Halliday & Matthiessen 2014）と述べているように、言語学習における重要な着眼点の意識化を部分的にではあるが果たしていると言えよう。

続いて、話し言葉のみならず書き言葉も同時に学ぶという授業コンセプトに関して、特に回答（10）（11）（12）からは、本授業が書き言葉への興味喚起・学習意欲喚起に対して、一定程度有効に作用したことが示唆される。中国語教育者の相原茂が「日本人が、正確には日本人に限らず外国人が現代中国語を学ぶとき、私はどこかでアドバイスする。『現代語をやりながら、古典文言の基本も学んだほうがいいですよ』と。理由は明確だろう。現代語の中に、文言がよく顔を出し、しっかりと活躍しているからだ。実際、会話でよく使われる四字成語などは、その構造はまさに文言と言ってよい。“礼尚往来”とか“因人而异”“举棋不定”など、よく見、よく聞くところだ」（相原 2014：235）と述べている通り、書き言葉は中国の言語文化を理解する上で重要な要素である。従来の中国語教育においても、中級以降の段階ではさまざまな読解教材が提案されてきたが、多くは言語学習に特化した形で、編集・簡略化されたテクストであった。それに対して本教材では、実際に中国国内の読書市場に流通し、中国語母語話者が日常的に読むオーセンティックなテクストを用いる点に特徴があり、その点が学習者に新鮮な刺激を与えたと考えられる。

一方で、回答（6）に見られるように、「前半パートの文章が少し難しかった」と感じた学習者も少なくない。本教材が扱うテクストの語彙や表現の多様さ、文体の凝縮性が、一定の学習負荷をもたらしたことは確かである。しかし、同時にその学習経験が「中国語の読解力が上がった気がする」といった肯定的な自己評価につながっている点は注目に値する。今後は、物語テクストを題材とした前教科書（単 2022b, 2024）での授業改善プロセスを踏まえつつ、補助スライドなど支援教材の工夫を通じて、学習負荷を適切に調整しながら理解を深められるような環境整備を進めていくことが課題である。

6．おわりに

本研究では、教科書シリーズ『中国 ことばの世界を旅する』の第２冊目として、旅行ガイドブックを題材とした教科書を作成し、授業実践に導入した。授業実践において、言語的側面および文化的側面の双方について一定の教育的効果が確認されたが、依然として多くの課題が残されている。今後は、これらの課題を踏まえつつ、授業カリキュラムをより洗練させることで、「外国語学習の場」を単なる知識習得の場ではなく、間接的・予備的な「異文化経験の場」として位置づけることが可能となると考える。外国語で外国（非〈ホーム〉的な場所）について書かれたテク

ストを読み解く過程において、学習者はその場所の異質性に意識を向けるとともに、自文化の特性にも気づくことができる。さらに、それまで自明のものと認識していた自文化内部にも多様な異文化が共存していることを認識する契機となる。今後も、これらの視点を踏まえた教材開発および授業実践を継続していきたい。

参考文献

相原茂（2014）『中国語 未知との遭遇』現代書館.

嵐洋子（2018）「日本語教育における媒介語の使用について：文法訳読法からコミュニカティブ・アプローチまで」『杏林大学外国語学部紀要』30, 135-148.

池上嘉彦（1985）「テクストと意味」池上嘉彦（編）『意味論・文体論』大修館書店, 61-76.

植村麻紀子（2018）「中国語教育におけるCLIL活用の可能性――“中国留守児童”を題材に――」『中国語教育』16, 147-167.

内田樹・芦田宏直・西山教行（2011）「異文化理解と外国語教育――大学における教養主義教育はどこに行く？」『Rencontres』25, 97-104.

岡真理（2017）『アラブ、祈りとしての文学 新装版』みすず書房.

賀南（2021）「中国語授業におけるタスク中心型言語学習ゲームの実践例とその効果――オンライン授業での導入の試み――」『山梨国際研究：山梨県立大学国際政策学部紀要』16, 35-45.

グリブ・ディーナ（2023）「日本語教育における異文化能力育成に向けてのオンライン動画教材の事例研究」『言語の研究』11, 105-115.

佐竹由帆（2025）「VRを活用した英語スピーキング学習の効果：自己評価と学習意欲の向上」『青山経済論集』76（2/3/4）, 149-164.

白井龍馬・松岡智恵（2024）「英語で絵画鑑賞を行う授業の実践報告と効果検証」『美術による学び』5(1), 1-19.

単艾婷（2022a）「ブックレポート活動を取り入れた中国語授業の試み――その可能性と課題――」『中国語教育』20, 95-115.

単艾婷（2022b）『中国 ことばの世界を旅する――陈谌《冰箱里的企鹅》』朝日出版社.

単艾婷（2023）「Show & Tell活動を取り入れた上級中国語授業の試み――外国語教育とナラティヴ教育による共創を目指して」『西南学院大学言語教育センター紀要』13, 1-22.

単艾婷（2024）「四技能の有機的連携を目指したオーセンティック中国語学習――テキスト『中国ことばの世界を旅する』を用いた事例研究」『東アジア言語文化研究』6, pp.1-11.

単艾婷（2025a）「協働学習を取り入れた中国語のShow & Tell活動――学習者産出物のマルチモーダル的特性に着目して――」『中国語教育』23, 89-109.

単艾婷（2025b）『游中国 一度は行ってみたい絶景12選――王全民主編《100个地方畅游通》より』朝日出版社.

張彤（2017）「『内容言語統合型学習（CLIL）』を取り入れた中国語授業の試み」『Lingua』27, 161-170.

辻野裕紀（2018）「〈読むこと〉をめぐって：内向き志向の言語教育へ向けて」『言語科学』53, 39-46.

西村亜希子（2025）「CM を教材として使用したスペイン語授業実践報告」『多言語教育実践ジャーナル』5, 83-91.

野村眞木夫（2024）「日本語の物語テクストにおけるまとまり性とマルチモダリティ」斎藤倫明・修徳健（編）『談話・文章・テクストの一まとまり性』和泉書院，207-228.

柳川優（2025）「内容と言語をどう統合するか：ベルギーの高等学校における CLIL 授業に関する事例研究」『神戸大学国際コミュニケーションセンター論集』21, 1-29.

渡邉ゆきこ（2023）「VR にできること、VR にしかできないこと ── VR を活用した中国語授業の実践報告」『中国 21』58, 125-138.

陈谌（2014）《冰箱里的企鹅》《世界上所有童话都是写给大人看的》天津人民出版社.

王全民（主编）（2017）《100 个地方畅游通》江苏凤凰科学技术出版社.

Graburn, N. H. H.（1977）. Tourism: The sacred journey, In Smith V. L.（Eds.）*Hosts and guests: the anthropology of tourism*. Philadelphia: University of Pennsylvania Press, 17-32.

Halliday, M. A. K., & Matthiessen, C. M. I. M.（2014）. *An introduction to functional grammar*（4th ed.）. London: Arnold.

付記：本稿は、研究集会「ことばと旅 ── 異文化コミュニケーションの新たな視座を求めて」（2025 年 3 月 4 日）での発表内容をもとに加筆・修正したものである。また、本稿は JSPS 科研費 22K13171（「読書活動とコミュニケーション活動の統合による新たな中国語教授法の構築」）の研究成果の一部である。